

鹿児島の動物34

クサフグの集団産卵

動物担当 池 俊人

クサフグは、北海道南部から沖縄県までのほぼ日本全国に広く分布しています。沿岸域や河口汽水域を主な生息場所としている、全長約15cmのフグ科の魚です。



産卵前に浅瀬に集まる

5月から6月の満月か新月の前後数日間、産卵を控えたクサフグは、夕方になると砂礫でできた海岸に集まってきます。そして、満潮の時刻が迫ってくると、波打ち際や、時には岸辺に乗り上がって、一斉に放卵・受精をします。集団産卵は約1時間続き、受精卵は砂礫のすき間で発生して、数日後にふ化して稚魚になります。

なぜ、わざわざこのような場所で産卵するのでしょうか。まだ解明されていませんが、

鹿児島の昆虫46

与論島の昆虫

昆虫担当 金井 賢一

県立博物館では、2014年11月に与論島で移動博物館の開催を予定しています。与論島の自然を紹介するために、6月24日～26日まで訪問し、調査してきました。あいにく梅雨の最終日に相当し、天候はあまりよくありませんでしたが、

シロヘリハンミョウ
沖縄亜種

与論島では今までシロヘリハンミョウ沖縄亜種およびエリザハンミョウの記録しかありませんでしたが、今回コハンミョウが1オス2メス採集できました。まだまだ調べれば初記録の昆虫がたくさんいると思われる。



コハンミョウ

満潮時以外に水没しない場所に産卵することで、大切な卵を他の動物に食べられる危険から守っていると考えられます。



岸辺に乗り上がって行われる集団産卵

このような集団産卵は、阿久根市の数か所の海岸で観察することができます。他の地域でも、産卵に適した環境の海岸があれば、集団産卵を観察できるかもしれません。

雨の合間には、クマゼミが盛んに鳴きました。在住の方に伺ったところ、「鳴き声が聞かれるようになってまだ4日程度であるが、

天候不順が続いており、雨の日には鳴かないので、本当に今出たばかりとは限らない」とのことでした。与論島のセミはクマゼミしか今まで記録がありません。ところが、「ごくたまにニイニゼミが鳴くことがある」「昔小さなセミを採り、みんなに自慢した」と在住の方は言います。沖縄本島にはニイニゼミの仲間がいますので、時々飛来するのかもしれませんが、



クマゼミ

しかし、セミが海を渡るほど飛べるのか、疑問です。

鹿児島大学理学部の約20年分に及ぶ与論島実習に関する昆虫標本が、この春退官された山根正氣先生から博物館に寄せられました。移動博物館当日はこれらの標本や記録も展示し、地域に皆様に紹介できればと思います。